

世界の天然ガス事情

2022年3月

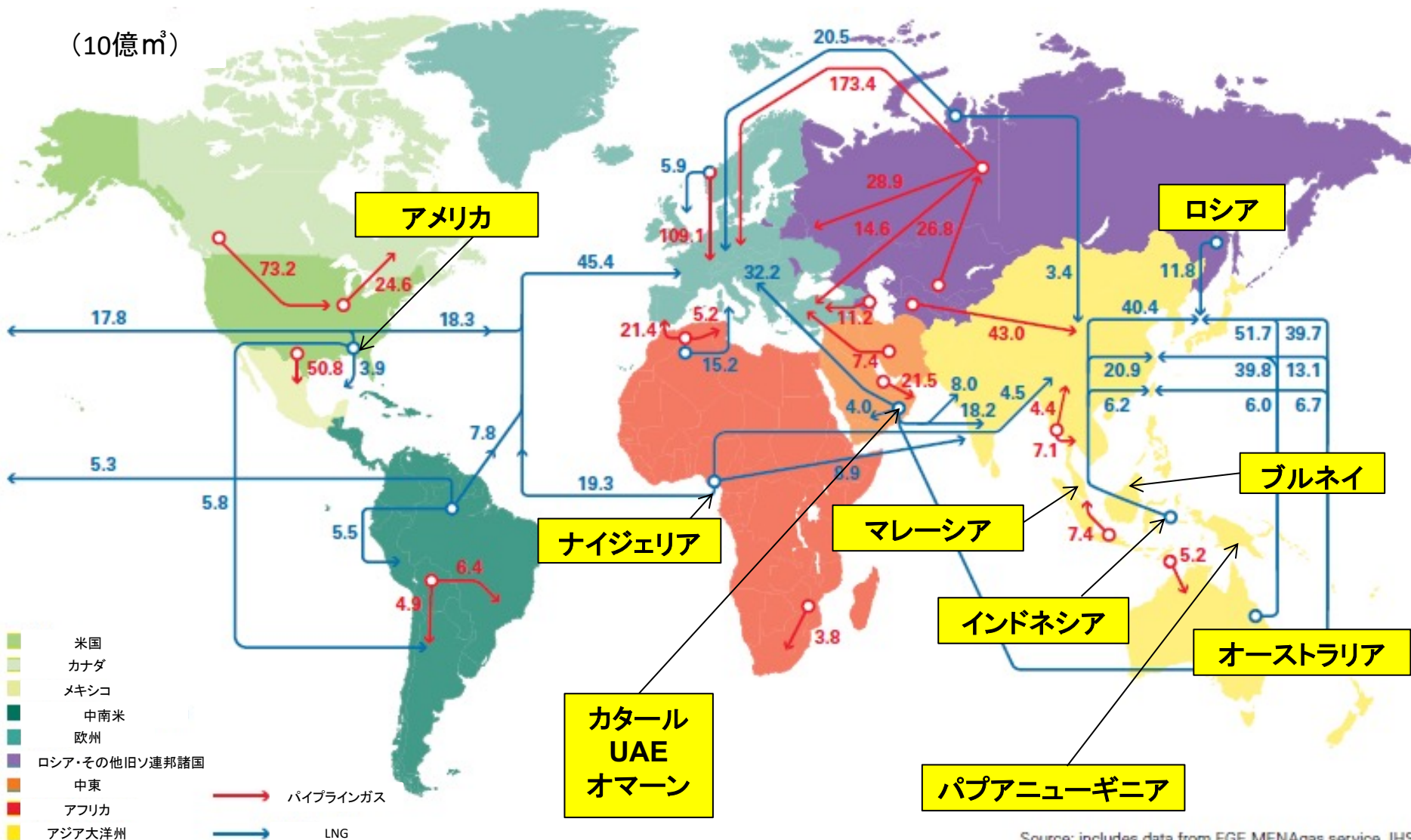
衆議院議員

吉良州司

1. 世界の主要なガス貿易の動き

日本への主なLNG供給国

(10億m³)



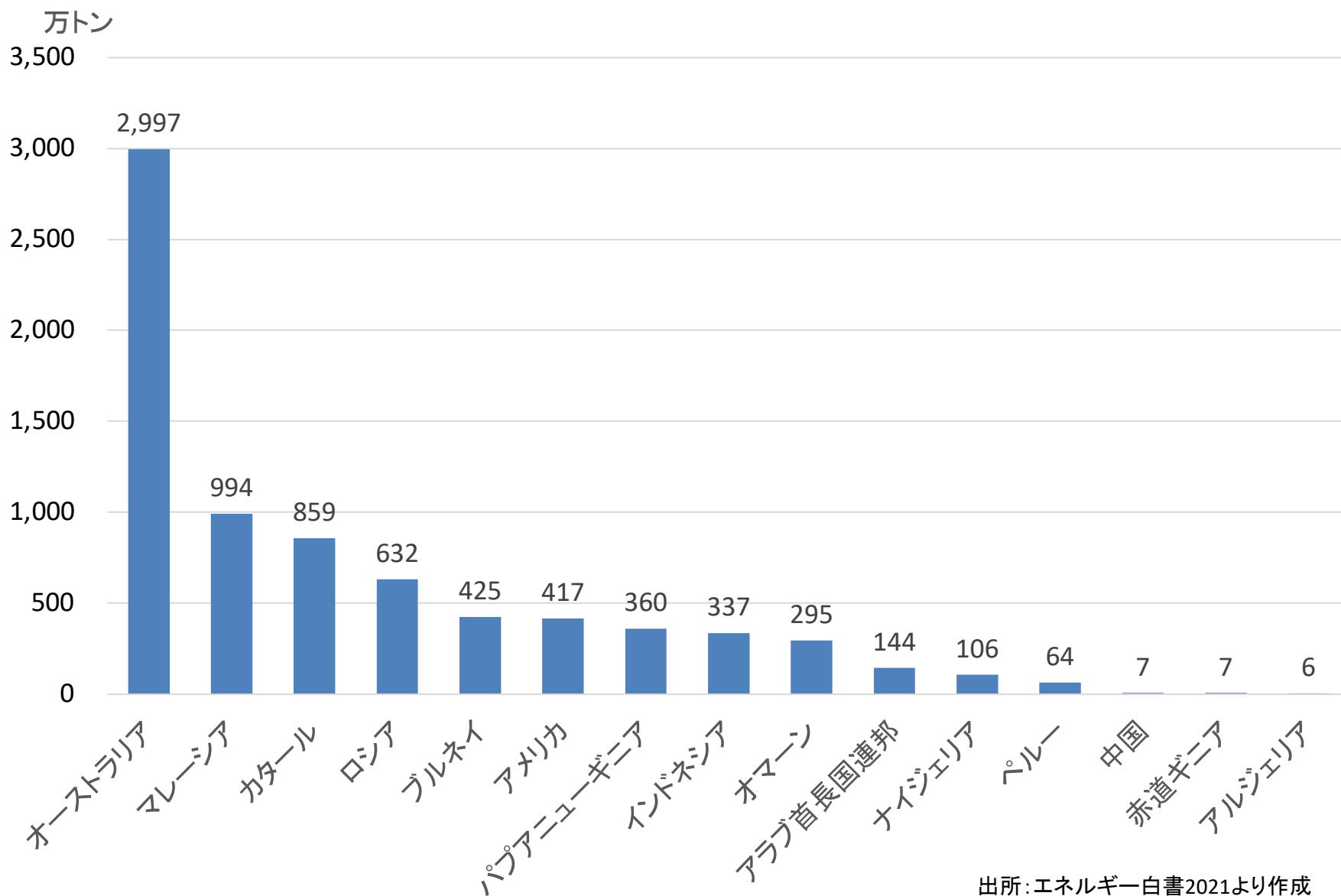
Source: includes data from FGE MENAgas service, IHS.

出所: エネルギー白書2021

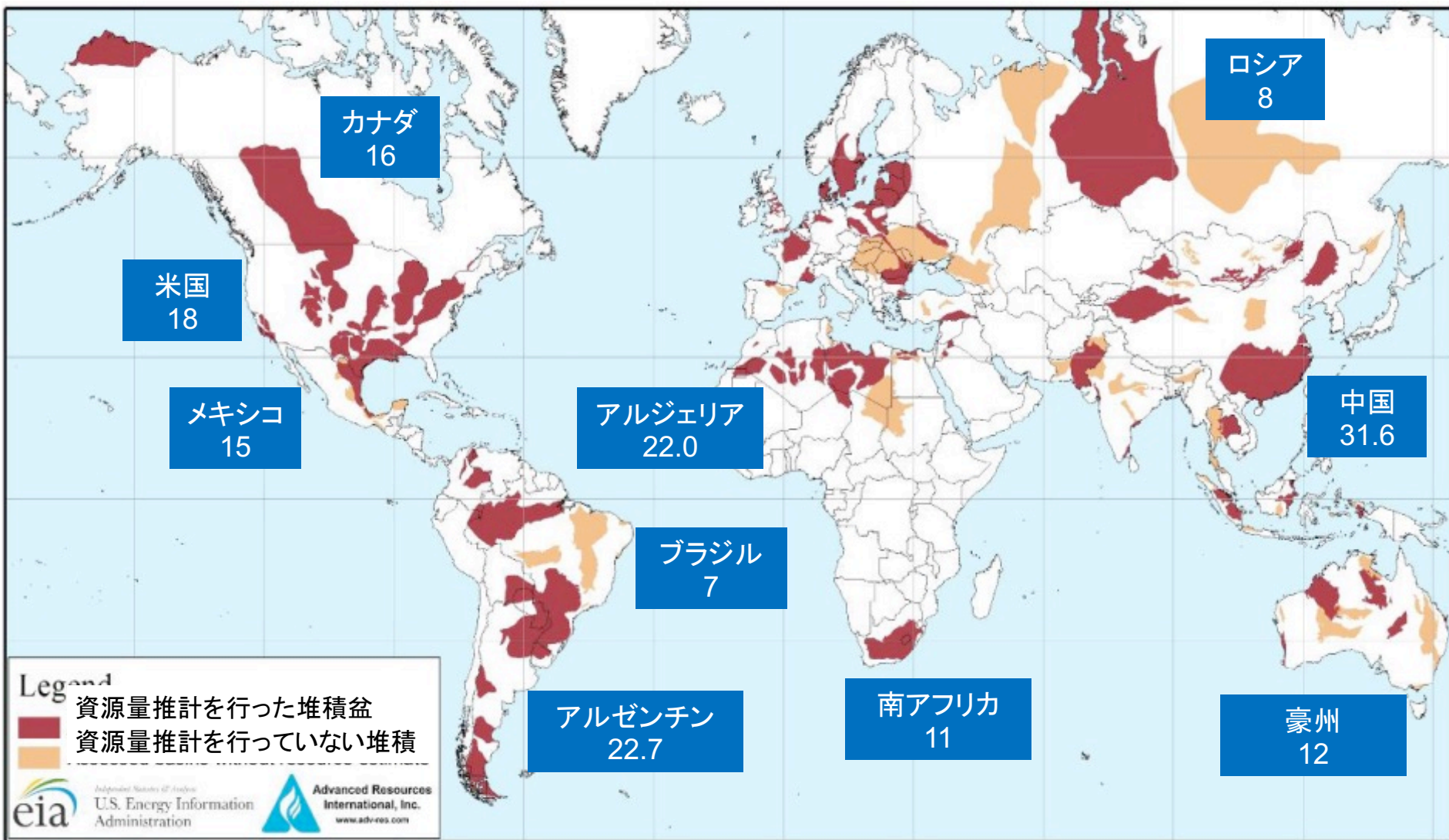
2

吉良州司

2. 日本のLNG輸入先(2019年)



3. 世界のシェールガス技術的推定可採埋蔵量(但し、全貌は未解明)

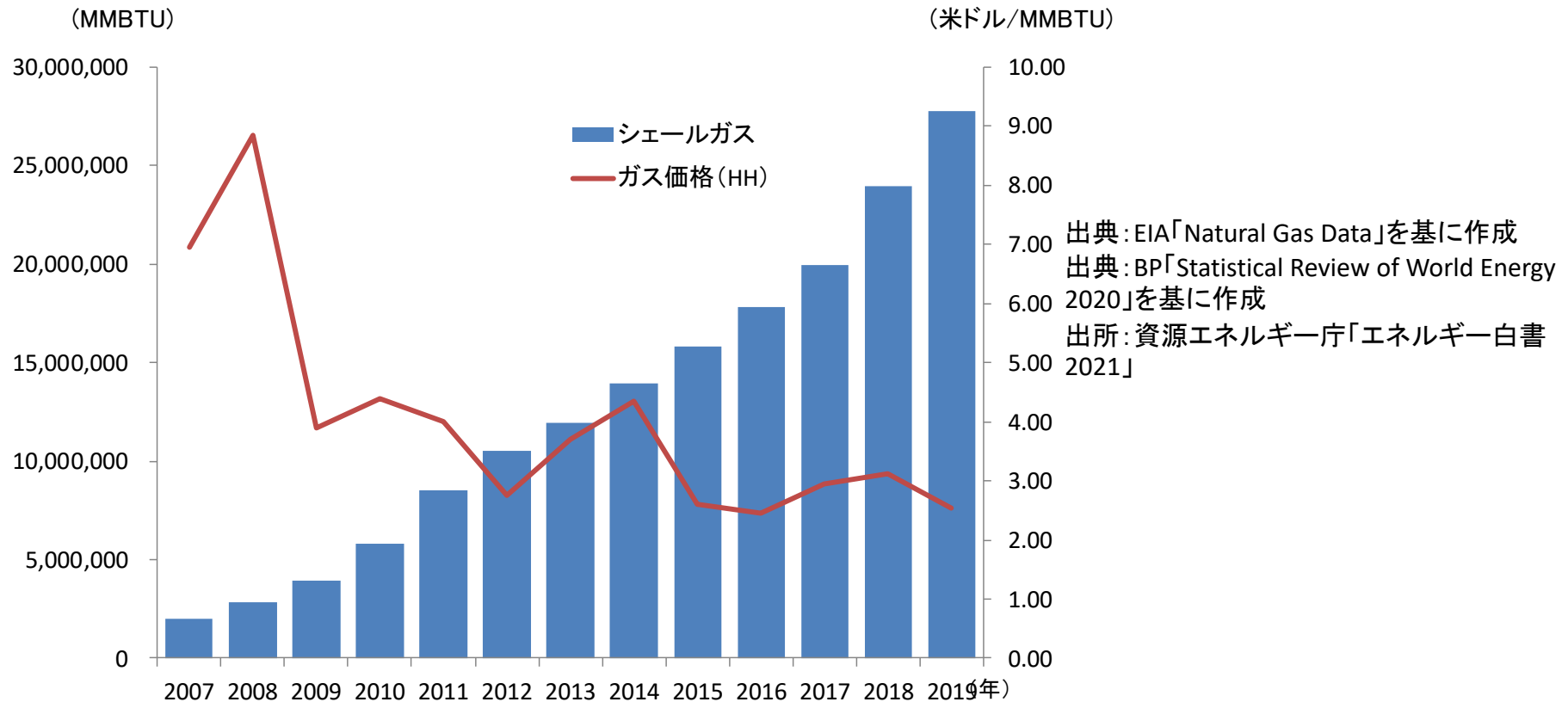


(単位：兆m³)

出典：EIA「World Shale Resource Assessments」(2015年9月)を基に作成

出所：エネルギー白書2021

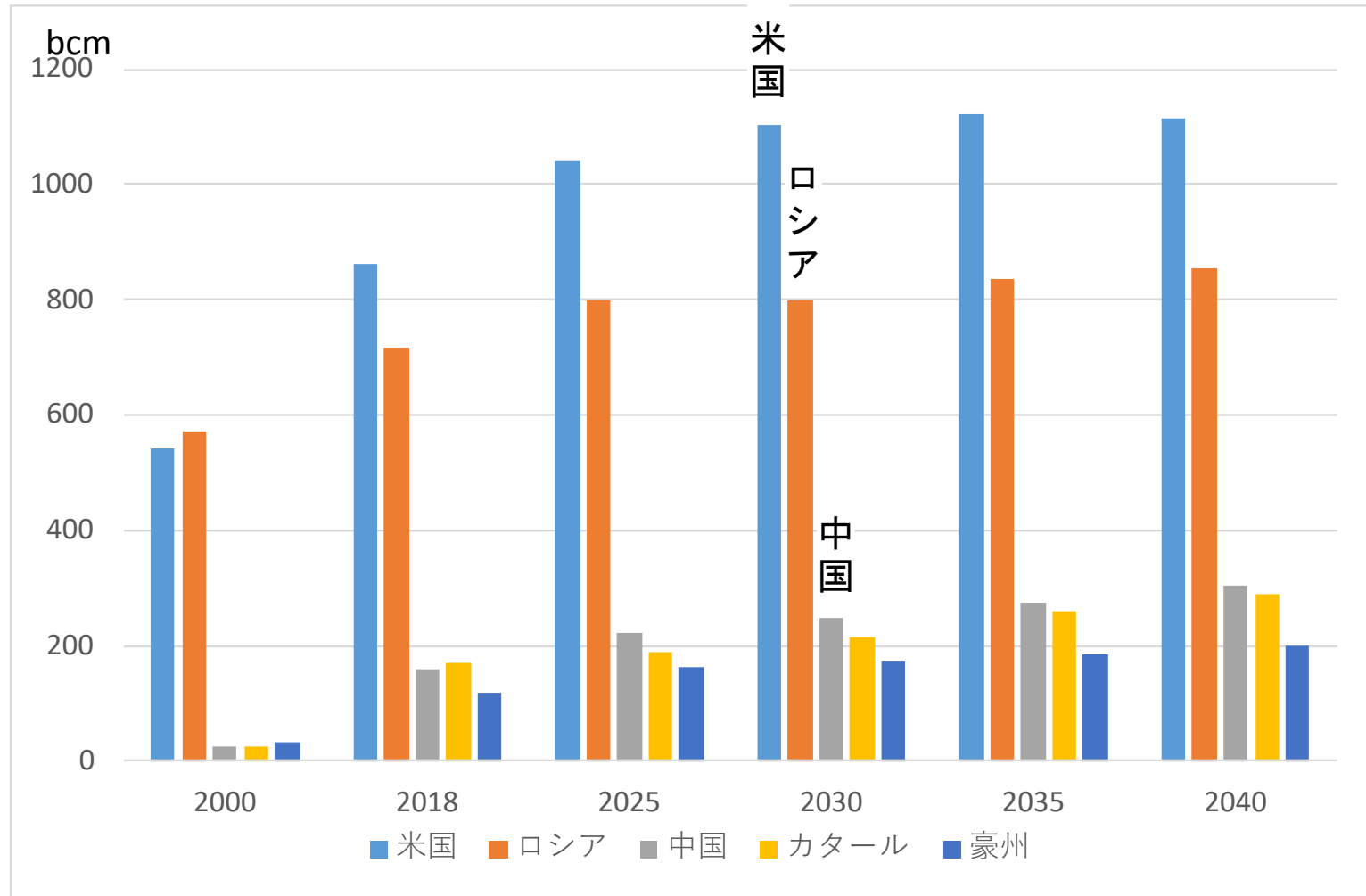
4. 米国ではシェールガス生産増とガス価格低下が進行



<シェール開発を可能にした米国のビジネス環境>

- ① 慣習法として土地所有者に地下資源が帰属 (他国では国が地下資源を所有するケースが多い)
- ② 整備された輸送網
- ③ パイプライン等への第三者アクセス (Third Party Access) が確保されていること
- ④ 採掘技術の進歩により回収量が飛躍的に増え、採算がとれるようになった
- ⑤ 豊富な地質情報

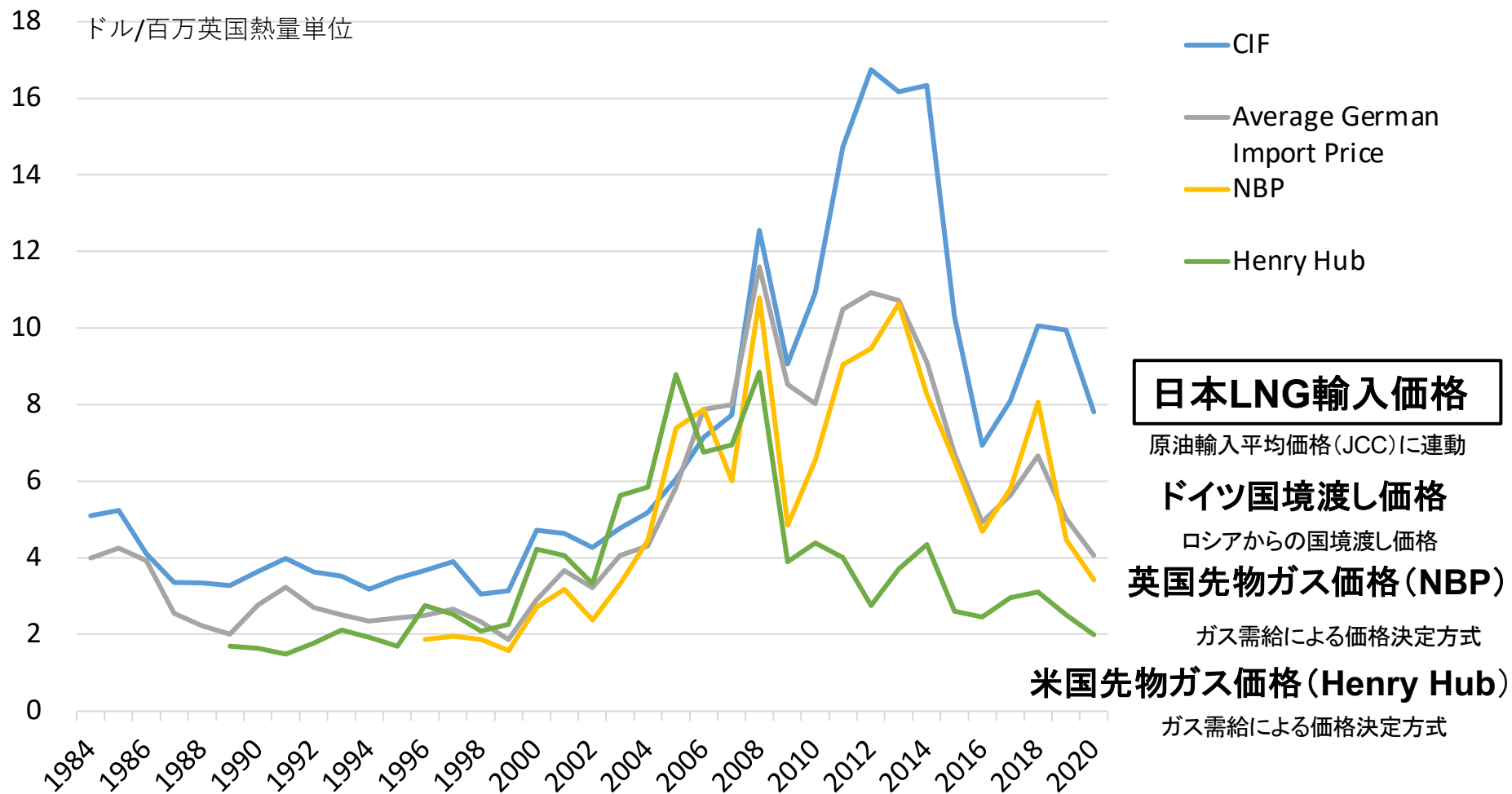
5. 世界の天然ガス生産量見通し 米国が世界第1位、ロシアが第2位



- ・ 米国は、近年世界最大のガス生産国となった。
- ・ 現在のウクライナ情勢が世界のエネルギー事情に及ぼす影響は、世界生産量第1位の米国と第2位のロシアとの生産と輸出の覇権争いの感もある。

出典：IEA「World Energy Outlook 2019」を基に作成。※公表政策シナリオ (Stated Policies Scenario) に基づく見通し。

6. 世界の天然ガス価格は地域価格差が縮小 直近ではスポット価格が急上昇

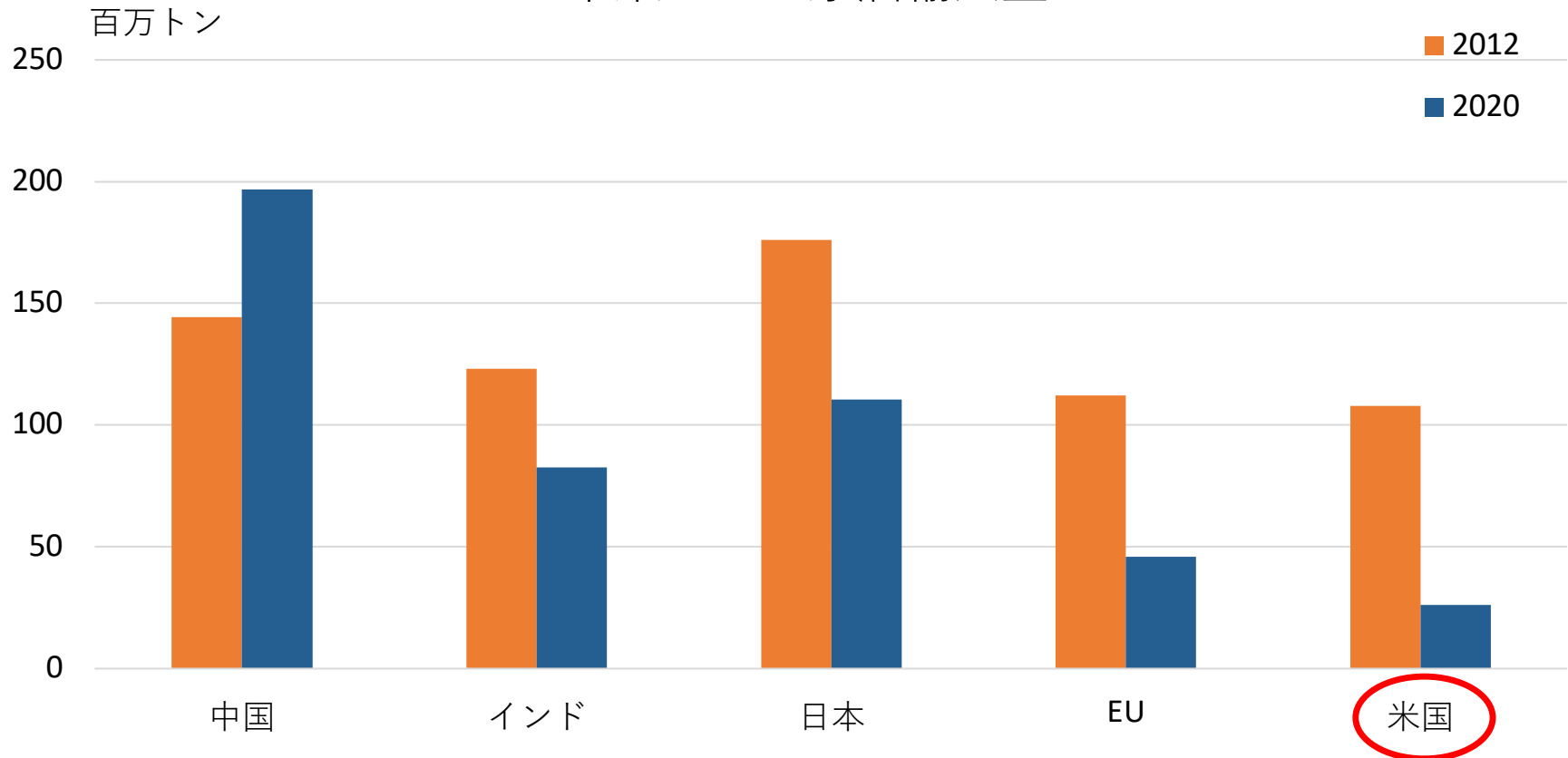


- ・ 特に米国ガス価格の低下により、日本の LNG輸入価格と米国ガス価格は 大きく広がっていたが、近年は縮小している。
- ・ 一方、上記グラフでは反映されていないが、直近では需給ひっ迫が高じて天然ガスのスポット価格が急上昇しており、ウクライナ情勢がそれに拍車をかけている。

出典: BP統計2021年より作成

7. 中東から米国への石油輸出は劇的に減少 米国の中東関与への必然性が低下

中東からの原油輸入量

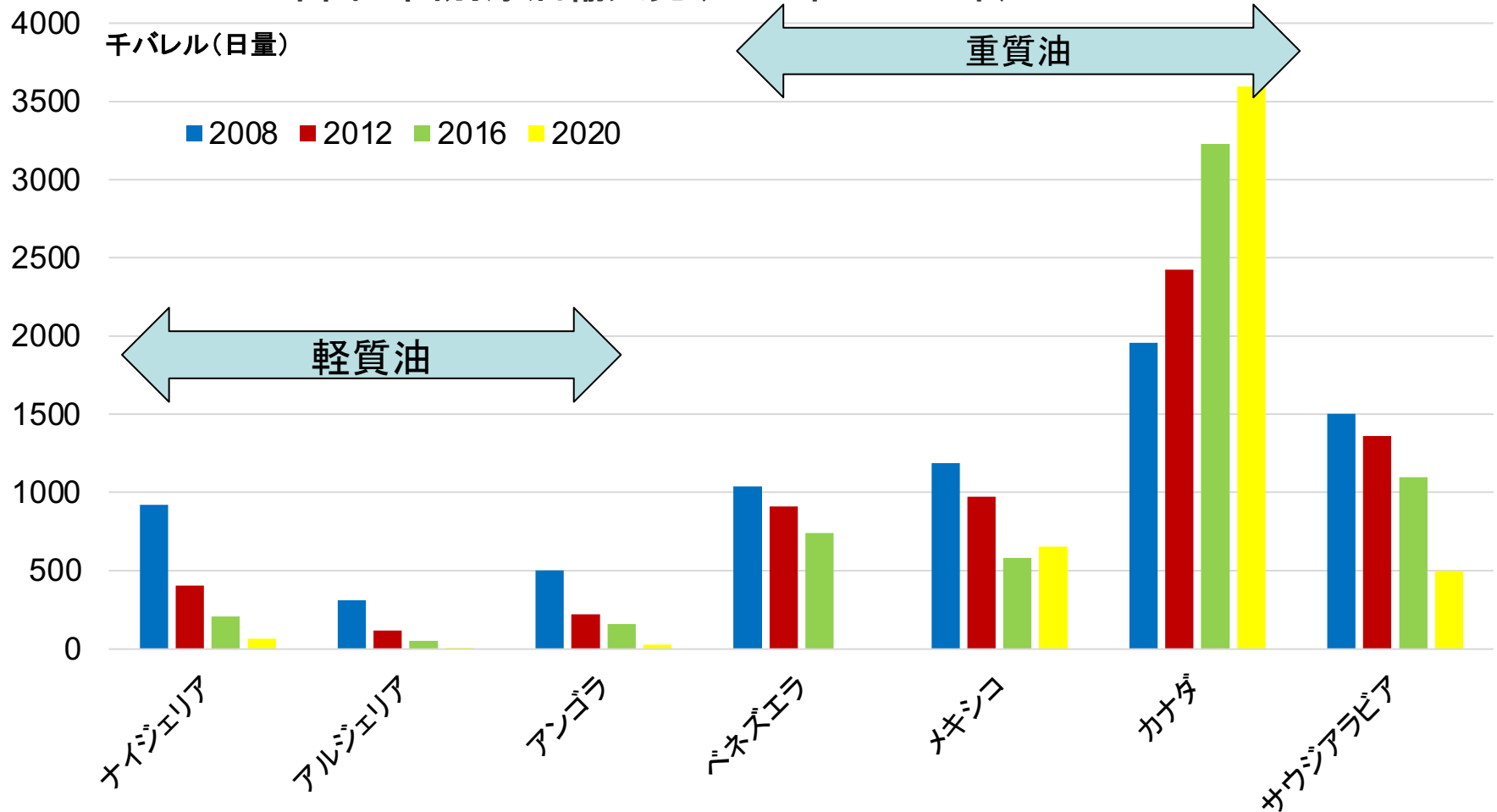


- (1) 中東からの石油供給先として中国が台頭
- (2) 米国、中国の中東への石油依存度の変化は各国の中東関与政策に影響する

出典：BP「Statistical Review of World Energy 2013,2021」を基に作成

8. 米国の国別原油輸入先 シェールガス生産量増加により軽質油輸入が減少

米国の国別原油輸入先(2008年～2020年)



(1) 軽質のシェールオイルと競合するナイジェリア、アルジェリア、アンゴラからの軽質油の輸入量が急減

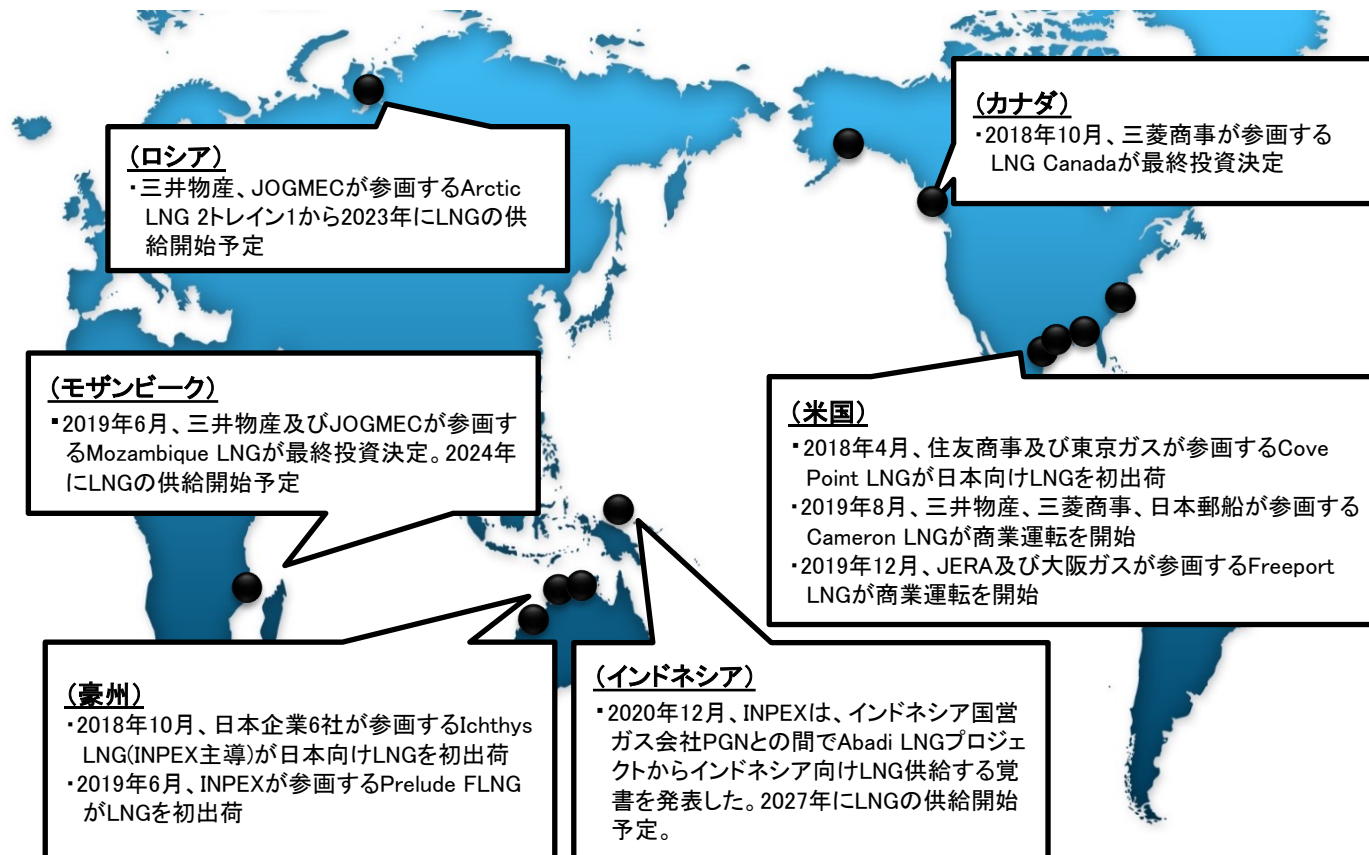
(2) ベネズエラとメキシコは減っており、カナダからの輸入量は増えている。

但し、ウクライナ情勢を受けて、米国はベネズエラからの原油輸入増を検討しはじめている。

出所: EIAデータより作成

吉良州司

9. 日本企業が参画する世界の主要なLNGプロジェクト



(出典:エネルギー白書2021)

- (1) 我が国は、世界各国にLNGの上流権益の開発を行っている。
- (2) 日本企業は、政府系のJOGMEC、商社系(三井物産、三菱商事)、運輸系(日本郵船)、原油系(INPEX)、電力ガス系(JERA、大阪ガス)等の各種企業が参加。

10. 日系企業が参加する主な北米の上流開発プロジェクト



- ・ 2013年5月、フリーポートLNGで、初の日本向けLNG輸出許可が下りた。
- ・ 現在進行形のウクライナ情勢を受けて、米国キャメロン・プロジェクトはロシア産天然ガスの代替としてLNG生産量6割を増産する計画

(出典: エネルギー白書2021を基に作成)

11. 極東ロシアの開発プロジェクトと日本企業の参画

- (1) プーチン大統領のイニシアティブで進める極東開発の一環として、ガスプロムがサハリン～ウラジオストクのパイプラインを建設。東シベリア～ウラジオストクのパイプラインの建設も検討中。
- (2) ウラジオストクに輸送される天然ガス使用のウラジオストクLNGプロジェクトを日露共同で検討中

